



ぶんかれんニュース

2013年2月

文化芸術次世代育成 支援事業はじまる



出雲歌舞伎成果発表「スサノオの里こども芸能大会」
～白波五人男 極楽寺山門の場 大立ち回り～ (スサノオホール)



表現・コミュニケーション授業
～隣の人と「目」を合わせるゲーム～
(国富小学校)



和太鼓ワークショップ (窪田小学校)



弦楽キャンプ (8月7～9日) 全員での合奏練習 (サンレイク)

文芸作品公募・ジュニア部門の充実
しまね文芸フェスタ・益田市での開催8年ぶり
島根県総合美術展・開会式の実施
硬筆アート展・移動展を大田市で開催

ほか

次世代／子どもたちの活躍!! (写真)

会員の皆様による次世代育成の取組が各地で展開されています。文化芸術の持つ力が、子どもたちの真剣な眼差しやいきいきとした笑顔を引き出します。

「ぶんかれん」(島根県文化団体連合会)とは
島根の文化振興を目的として、県内の音楽、演劇、舞踊、伝統芸能、美術、文芸などの団体によって、平成14年7月に設立されました。主な活動は、文化団体相互の連絡調整、島根県民文化祭の企画・実施、文化団体の育成等。会員には分野別の県域文化団体と市町村文化協会など46団体が加盟。賛助会員として報道機関など20団体が参加しています。

目次

- 島根県文化芸術振興条例と担い手育成……………2
- 平成24年度文化芸術次世代育成支援事業<島根の文化芸術体験事業> ……3
- 第10回県民文化祭主催事業……………4～6
- この人に注目!!……………7
- 今回インタビューするのは
県展デザイン部門・知事賞・堀江真衣子さん(奥出雲町在住)
- うれしいニュース ひわきとこ 日和聡子さん野間文芸新人賞を受賞 ほか……………8
- 編集後記・問い合わせ先……………8

島根県文化芸術振興条例 と担い手育成

島根県文化芸術振興条例の制定

島根県文化団体連合会は、平成14年の結成以来、「県民文化祭」の企画運営はもとより、島根の文化芸術の振興のため取り組んで参りました。

そのような中、「条例」の必要性についても議論を深め、平成23年9月に島根県議会に提出した要望書がきっかけとなり、全議員の賛同を得て平成23年11月議会において島根県文化芸術振興条例が制定されました。
(平成23年11月29日公布・施行)

この条例の基本理念は

○**県民の自主性・創造性が尊重され、自由な発想により文化芸術活動が行える環境整備**

○**文化芸術における人材の育成と、県民の財産としての将来への継承**

の2点となっています。

文化団体連合会としましても、この基本理念を踏まえ、会員の皆さま自らの手によって次代の担い手を育成するとともに、県民が文化芸術を鑑賞し、参加、創造できる機会を提供する取組を推進していきます。

※条例本文については、県文化振興室のHPに掲載されています。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/bunkashinko/jyourei/>



島根県文化団体連合会会長
有澤 寛



条例には、県民が積極的に文化芸術を創造し、参加して継承する役割を担うとあります。島根の文化芸術の発展のためにも、会員の皆さまの自主的で創造的な活動が、ますます活発になることを期待しております。

また、文化連そのものがさらに力を発揮する必要があります。このためには、裾野の拡大が重要であり、多くの個人、団体に文化連会員の活動に参加してもらえるよう積極的な働きかけをしていくことが大切と考えます。

平成24年度文化芸術次世代育成支援事業 〈島根の文化芸術体験事業〉

地元の文化芸術団体による子どもたちへの実技指導、合同公演

今年度新たに、文化芸術次世代育成支援事業〈島根の文化芸術体験事業〉を開始しました。この事業は、文化連会員の皆様が、学校や公民館等に出向いて、次世代の担い手に指導や合同公演を行う取組を、文化連から会員に委託して実施するものです。

取組一覧

団体名	事業概要(開催地等)
島根県オーケストラ連絡協議会	中学生への弦楽ワークショップ・合同演奏 (ワークショップ：出雲市、演奏会：松江市)
島根県合唱連盟	学校の合唱クラブ・少年少女合唱団の児童生徒への合唱講習・合同演奏と招待演奏(松江市)
島根県吹奏楽連盟	小学生への管楽器ワークショップ・指導者との合同演奏 (松江市、出雲市、益田市)
島根演劇ネット	小学生への「表現力」「コミュニケーション能力」ワークショップ・演劇の成果発表公演 (松江市、大田市、出雲市)
島根県太鼓連盟	小学生への実演鑑賞指導・成果発表、太鼓団体の模範演奏 (出雲市)
島根県地歌舞伎連合会	小学生への出雲歌舞伎の実演鑑賞指導・成果発表公演 (出雲市)
島根県高等学校文化連盟	高校生への舞台美術講習会(松江市)

4月、私立中学高等学校連盟校長会を皮切りに、5月以降、県内教育事務所単位で開催される県教育委員会主催の教育施策説明会(各小中学校長参加)でPRしました。

また、10月15日、TSKの県政広報テレビ番組「しまね情報キューブ」で八雲小学校(松江市)の「劇づくり」と、窪田小学校(出雲市佐田町)の「和太鼓」の取組を取材、放映してもらいました。

来年度に向け、県・市町村教育委員会等を通じ学校に情報提供をし、活用を働きかけていきます。



高校生への舞台美術講習会(松江工業高校)



第1回若い芽のための合唱フェスティバル(プラバホール)



第10回県民文化祭 主催事業

文芸作品公募

文芸作品公募 ～ジュニア部門の充実～

次世代の担い手を育成する意味合いも含め、今年度、文芸各種目のジュニアの部(小中学生対象)に新たに大賞・優秀賞の2つの賞を創設しました。

これに合わせて、各団体から学校等への出品の働きかけを強化してもらった結果、出品数が844点から1,172点へ大幅に増加しました。

12月9日の表彰式当日には、島根県川柳連盟の協力により、子ども向けの指導会が行われました。川柳の部のジュニア部門大賞・優秀賞受賞者、江津市桜江町から入選した小学生4名が参加し、川本畔先生、金築雨学先生のお話真剣に耳を傾けていました。

また、ジュニアの部の作品集を新たに作成し、県内全小中学校に配布しています。

ジュニアの部の創設以来、若い力が数、質ともに伸びていく兆しが芽生えはじめており、今後に期待しています。



文芸作品公募 表彰式
(県職員会館)



子ども向け指導会〈川柳の部〉(県職員会館)

しまね文芸フェスタ

しまね文芸フェスタを8年ぶりに益田市で開催

島根県短歌連盟(幹事)を主体に「しまね文芸フェスタ2012」を Grantow(益田市)で開催しました。

三枝昂之氏(歌人、文芸評論家、日本歌人クラブ中央幹事)を講師に「短歌、1300年の魅力」と題した講演会を開催。短歌とは、「日々の暮らしをうたう日記代わり、感受性の基本づくり、人生を反映した長距離ランナーのよう」とその魅力をお話いただきました。その後、短歌、俳句、川柳、詩、散文の各部門にわかれ交流会を開催、親交を深めました。益田市での開催は8年ぶり。関係者の皆様、とりわけ地元実行委員の皆様には大変お世話になりました。



島根文芸第45号



三枝昂之氏 講演会



しまね文芸フェスタ2012

硬筆アート展

硬筆アート展(中央展・移動展)を開催

11月4日から8日まで県民会館で中央展を、11月23日から25日まで大田ファミリーデパートで移動展を開催しました。

毛筆以外の筆具(つけペン等)による作品をはじめ、割り箸、ろう、歯ブラシなどで文字を表現した作品など、計85点のバラエティに富んだ展示会となりました。出品者の最年少は7歳で、小・中・高校生から80歳代までの幅広い年齢層の方々から、また隠岐・出雲・石見と全県域から出品いただきました。



中央展会場にて



移動展(大田バル)

島根県総合美術展

開会式とともに開幕

今年で第45回となる島根県総合美術展(県展)は、11月24日、県立美術館ロビーでの開会式で開幕しました。主催者である島根県 小林副知事、文化連・有澤会長のあいさつの後、日本画、書、工芸、彫刻部門代表の方々によるテープカットが行われました。



第45回島根県総合美術展開会式

続いて、各部門代表や受賞者によるギャラリートークが催され、出品作品の解説や受賞作品の紹介がありました。ギャラリートークは、作品の見方が深まる解説や、作者の人柄や想いに直接触れる貴重な機会となり、参加者から来年以降も続けてほしいといった声も聞かれるなど好評でした。

今回は計669点の応募作品があり、県立美術館には、9日間の期間中に9,137名の方々が観覧に訪れました。



開会式後のギャラリートーク

高校生の優秀作品を特別展示

県展の期間中、県立美術館ロビーで「古事記編さん1300年」の節目を記念し、高校生の作品15点を展示しました。平成24年3月に開催された「神々の国しまね」高校生美術コンクール・写真コンクールでの入賞作品です。いずれも県内の高校生の豊かな想像力とふるさとへの誇りが込められた優秀作品で、レベルの高さに驚くとともに、今後の活躍が期待されます。

「神々の国しまね」高校生美術コンクール・写真コンクール優秀作品特別展示



移動展での展示点数を拡大

12月6日からの石見美術館(グラントワ内)での移動展は、展示点数の拡大に努め、前回の129点から今回は176点となりました。移動展には、4日間の期間中に756名の方々が観覧に訪れました。



移動展

第10回県民文化祭入賞者一覧

文芸作品公募

短歌

- 知事賞** 大内 政江(出雲市)
金賞 櫻尾 道子(邑南町)
銀賞 金山 黎子(出雲市) 岩田 明美(安来市)
銅賞 内藤 章江(松江市) 足立 廣(雲南市)
森口 時夫(川本町)
ジュニア部門大賞 山尾 真奈(松江市立第四中学校)
ジュニア部門優秀賞 永島 夏輝(開星中学校)

俳句

- 知事賞** 大内 政江(出雲市)
金賞 万代 紀子(松江市)
銀賞 丹後 漁舟(出雲市) 玉木 春の泥(出雲市)
銅賞 桶田 朝野(出雲市) 飯塚 佳子(出雲市)
奥井 紘子(出雲市)
ジュニア部門大賞 澤田 真優(松江市立八雲中学校)
ジュニア部門優秀賞 桑原 菜摘(開星中学校)

川柳

- 知事賞** 松本 知恵子(松江市)
金賞 安黒 登貴枝(益田市)
銀賞 柳樂 たえこ(出雲市) 相見 柳歩(松江市)
銅賞 梶谷 武利(出雲市) 芝原 恵子(松江市)
原田 美智子(松江市)
ジュニア部門大賞 善浪 大雅(松江市立美保関中学校)
ジュニア部門優秀賞 青山 海優(出雲市立佐香小学校)

詩

- 知事賞** 佐藤 好野(出雲市)
金賞 船谷 清子(松江市)
銀賞 大山 博子(邑南町) 牧尾 実(隠岐の島町)
銅賞 三明 美久(大田市) 小林 延子(雲南市)
ジュニア部門優秀賞 野津 岬希(松江市立第四中学校)

散文

- 知事賞** 光岡 和子(浜田市)
金賞 猿木 浩二(出雲市)
銀賞 佐野 正芳(出雲市) 石橋 直子(松江市)
銅賞 三明 美久(大田市) 大橋 美津子(浜田市)
藤本 欣哉(広島市(出身：浜田市))

硬筆アート展

- 知事賞** 加田 恵琴(出雲市)
金賞 横川 静江(松江市)
銀賞 石川 礼子(出雲市) 伊藤 竜平(松江市)
銅賞 伊藤 敦子(松江市) 雑賀 由美子(松江市)
島田 洋三(江津市)

島根県総合美術展(県展)

日本画

- 知事賞** 伊藤 圭子(出雲市)
金賞 米原 修司(安来市)
銀賞 鎌田 卿子(出雲市) 安岡 繁子(松江市)
銅賞 今岡 恵子(出雲市) 清原 茂治(松江市)
渡 麻矢(大田市)

書

- 知事賞** 渡辺 和夫(出雲市)
金賞 小池 廣伸(雲南市)
銀賞 坂根 勝美(大田市) 花本 紗奈慧(浜田市)
銅賞 池尾 武(松江市) 小林 哲山(大田市)
森山 明日華(益田市)

洋画

- 知事賞** 菅野 達朗(松江市)
金賞 佐々岡 秀夫(浜田市)
銀賞 丸山 恵美子(大田市) 岩田 賀代子(安来市)
銅賞 岩成 優(松江市) 吉野 康子(松江市)
宅和 令子(松江市)

工芸

- 知事賞** 内田 和秀(松江市)
金賞 戸谷 昌代(安来市)
銀賞 山本 将之(松江市) 押越 正雄(大田市)
銅賞 神田 立(松江市) 陶山 節恵(安来市)
荒尾 浩之(大田市)

写真

- 知事賞** 坂本 新次(出雲市)
金賞 管田 亘城(松江市)
銀賞 吉田 亮三(安来市) 橋本 潤子(出雲市)
銅賞 奥村 茂(隠岐の島町) 武田 克弘(雲南市)
橋 重孝(大田市)

デザイン

- 知事賞** 堀江 真衣子(奥出雲町)
金賞 山川 房子(安来市)
銀賞 永原 英暁(松江市) 秋國 紋子(出雲市)
銅賞 榎 美由紀(奥出雲町) 関 のぞみ(奥出雲町)
中本 昌樹(奥出雲町)

彫刻

- 金賞 近田 裕喜(安来市)
銀賞 田中 俊晞(江津市) 祝部 昇禅(出雲市)
銅賞 石田 富士(江津市) 池田 雄三(益田市)
伊藤 真美(出雲市)

この人に 注目!!

デザイン部門 知事賞受賞
堀江真衣子さん



デザイン部門 知事賞受賞作品 「島根」

堀江真衣子さん(20歳)は、奥出雲町出身で現在同町内の島根デザイン専門学校で学んでいます。

学校の課題として取り組まれ、県展に出品されました。1年生だった昨年度も出品され奨励賞を受賞されましたが、最終学年(2年生)となり、2度目の挑戦で見事知事賞に輝かれました。

知事賞を受賞された感想は?また、 どのような反響がありましたか?

「デザイン」は自分の思いをどう伝えるか、見た人がどう感じるかが大切だと思います。その点が評価されたわけですから、本当にうれしかったです。自分以上に両親が喜んでいました。アルバイト先でも「賞取ったんだってね」と声をかけられ、改めてすごいことなんだなと実感しました。

デザインとの出会いは?

子どもの頃から絵を描くことが好きで、絵のコンクールにも応募して入賞したこともありました。地元に残りたいという気持ちが強く、町内にデザインを学べる専門学校があると知り、この道に進みました。

創作活動でのこだわりや、 想いはありますか?

作品に対する自分の思いをしっかりとって創作します。自分の作品を見てくださる人がどう捉えるかを強く意識します。デザインを見る人の捉え方ひとつで色々なことが変わるので、地域の活性化にも



つながるのではないかと
思っています。伝統的な
ことを継承していくこと
も大事ですが、デザイン
は新しいものをどんどん
取り入れて創り出すとい
うことが大きな魅力です。

今後の活動予定や、 将来の夢を教えてくださいか?

学校卒業後はデザインの分野に進むというわけでは
ありません。これまでは作品を通じて人と関わっ
てきましたが、将来は直接人と接し、他人を笑顔に
できる仕事に就きたいと思っています。

インタビューを終えて

堀江さんは専門学校卒業後も地元に残り、地
域おこしの活動にも積極的に関わっていきたく
と話されていました。デザインも趣味として続
けられるとのこと。堀江さんの力がこうした活
動にもきっと発揮されることと思います。来年
以降も県展への出品をお待ちしております。

「島根第九をうたう会」、志鳥音楽賞を受賞

12月13日、文化連会員である「島根第九をうたう会」がクラシック音楽興隆会主催の第19回志鳥音楽賞に選ばれました。

この賞は、1992年(平成4年)、音楽評論家 志鳥栄八郎氏が私財を投げ打って「クラシック音楽興隆会」を創設して以来、地域に根ざしてクラシック音楽の普及に尽くしてきた団体または個人の功績をたたえ、表彰されるもので、山陰両県で初めての受賞となりました。

「島根第九をうたう会」は、公募によるメンバーで構成。毎年12月には県民手作りの第九コンサートを平成4年以來継続して開催されており、今後の一層の活躍が期待されます。



県民手作りの「第九」コンサート フィナーレ
県民歌大合唱(12月9日)

加藤嘉昭さん、中野傳さん、島根県各種功労者表彰を受賞

11月26日、「多年創作活動に取り組み地域における文化芸術の振興に寄与した功労」により、文化連会員の中からお二人が受賞されました。

加藤嘉昭さんは、島根県短歌連盟理事長をお務めになり、浜田市に拠点をおく短歌結社「輪の会」の活動など短歌の分野で活躍されています。

中野傳さんは、益田市文化協会会長をお務めで、「喜多流益田喜扇会」での謡曲の構成、節付の指導など能楽・謡曲の分野で意欲的な活動をされています。

■編集後記

24年は、5月には出雲出身の女流棋士、里見香奈さんが女流四冠を史上最年少で達成。また、秋には、津和野出身の安野光雅さんが文化功労者に選出、続いて、安来節家元四代目渡部お糸(藪内和子)さんが、地域文化功労者文部科学大臣表彰を受賞されるなど、島根が目立つうれしいニュースが重なりました。みんなで喜びを分かち合い、これからの取組の励みとしたいものです。

ひわざとこ 日和聡子さん、野間文芸新人賞を受賞

講談社が主催し、これまで「立松和平」「村上龍」「村上春樹」等が受賞者として名を連ねる「野間文芸新人賞(第34回)」を、邑智町(現美郷町)出身の日和聡子さんが『螺法四千年記』で受賞。

日和さんは平成14年に、詩集『びるま』で第7回中原中也賞を受賞され、その後小説でも川端康成文学賞候補、三島由紀夫賞候補になり注目されていました。

大田高校在学中には「島根県芸術文化祭(現県民文化祭)」の詩部門に応募した『サーカディアンリズム』で銀賞を受賞された経歴があります。回想や戦争体験などの叙情詩が応募作品の大半を占める中で、日和さんの詩は独自の想像力や感性が光っていました。

県民文化祭参加者が第一線で活躍されることは、大きな刺激となり、文化芸術の担い手育成に、強力な後押しとなります。

県文芸協会が毎年公募し、入選作品を載せて発行する『島根文芸』は45号の歴史を重ねています。未来を拓く若い人たちに期待して、小、中、高校生の募集にも力を入れてきました。今年度は「ジュニアの部」の作品集も発行しました。

県内の文学活動の裾野がさらに広がり、隠れた原石が磨かれ、「日和さんに続け!」となることを願っています。

洲浜昌三氏(詩人連合理事長)談

「日和さんは、職員室前にぼくが掲示した『県芸術文化祭文芸作品募集』のチラシを見て、詩を応募したとか。一枚のチラシをきっかけに今回の受賞の喜びを共にできるとは不思議な縁を感じます。いつも読ませてもらってる詩や小説には、オリジナリティに富む想像力や言葉に対する独特の感性があり、時流に流されない文学性の高い作品は、いつか高い評価をうけるだろうと期待していました。野間文芸新人賞は島根から佐藤洋二郎さんに次いで二人目です。浜田出身の志川節子さんが今回直木賞候補でした。島根も底力がありますね。大田市文化協会では6月中旬に日和さんの講演会を開きます。楽しみです。」

発行者 島根県文化団体連合会

お問い合わせ…島根県文化団体連合会事務局
〒690-8501 島根県松江市殿町1
(島根県環境生活部文化国際課内)
TEL0852-22-5877 FAX0852-22-6412
E-mail bunkashinko@pref.shimane.lg.jp